212020 菊葉里紗

人生を共に生きるまち

ー石川県河北郡内灘町における定住するためのグランドデザインの提案ー

私のまちづくり10か条

1	2	3	4	5
新築の建物は 樹木より高くしない	新しく住宅を 建てる際は敷地内に 樹木を１苗植樹する	日常の中に 選択肢を増やす	住民が まちづくりに 参加できる場を 増やす	場所によって 町の中の情報格差が ないようにする
6	7	8	9	10
地盤が脆弱な場所は 平屋を推奨するか 地盤を強くする	便利さだけを 追求するのではなく 不便な部分も残す	動物や自然を大切に 動物も町の住民	全ての年代の 目線に立って 町を考えること	河北潟の自然を 保護すること

ゾーニング

計画前は人の寄う場が少なく、農地が住宅地を挟んでいるために人が分散していて、また人の寄う場も寂う人が限定されている現状がある。
計画では、住民は農地でかった末に人の寄う場的空間を軸に生み出すことで町の全体の一体感を出した。

ダイアグラム

今までの町はばらばらでした雰囲気の場が少しと、連続してなかった。その現状に対して、町中から空間質が少なかった中、生活の雰囲気が薄くまた町を構成に乏しく無駄な場となって、個々の場を繋ぎ、連結されることに行きて、ひ存在することで、全体としての一体感を出した。

まちづくりをする上での５つのアイコン

子どもたちが住み続けたいと思うまちづくり

私の地元である石川県内灘町、海から近距離が特徴、河北潟はばくさんの魚たちが棲みやすい環境にあるこしている。自立した特徴があるわけではない、しかし住みやすさ１番が不便な中でほんやすい地域だと感じることができる。でも、それは逆にのびしろとみなせる。

2024年1月1日現在に新しい、能登半島地震が起こった。
能登と2年間ほどみてきて、しかし、町は復興によってたくさん建物重点が進まれた。内灘町は、高低差が最大で海抜の差は58mはがある。
また低地の立地は、河北潟を平坦にした地であった。平坦は低ばくれった場所を埋めて住宅地として利用していたのに、地盤が弱く、液状化が多くみられた。液状化により家屋の倒壊、ライフラインの停止、公道は起伏を上へ中央を下落ちがまこしなった。その結果、引っ越しをしなければならない。

地震が起こる前から、町の現状の問題があった。内灘町は金沢市のベッドタウンとして、観光を重視まずやってた。その中に、高辺自治体と全う自治体で、町の観測値は最低値のもの比べてやっと考えられる。高辺自治体は、大型ショッピングモールや商業施設が点在しその近くに、町と一体のコンフォモールやのは半分以上が閉店し、閉鎖した状態である。

ターゲットはどうさん、町の将来を担うはずよりのあるとは思えない。そののにが子どもたちが将来を「ここは住んだけたい」と言う言葉は中期ひ多数のとやあるとき言った。では、ここに住み続けたいと言う町はどんな町であるのか。町の現状の地方中間数、あ方言ってみれるを結構ふ自身まとって、他の町にはない内灘町のこれからを考えるとこで定住し続けたいと考えるのではないか。子どもたちから見ればこの町への愛を持たせることが出来るのに、この町で実施と通ここと記憶であると思う。町の一の公園で遊ばでもらった。保育園の帰り道にこうまと通ったこの家は、この家はに家族まとって触ますべ、思い出は本物ここいって、などの時期を空間の構と重要ラの町を知ることが、町のいろいろ、ここ、町で成長ってことがとう言葉に変を、明日の大きな空で安全で、現場ここでもう言葉へはまっかけになるこ、なに現実的現実的にはなってもらえ、現場ここでもう言葉へはまっかけになるこ、なに現実的現実的にはなってもらえ、町の中で暮らす住民が実現空間を場所が様とここで安全の利益の現場中、無多多の現状による空間の整備が行われたり、それこそ定住し続ける選択肢として残るのではないと思う。子どもたちがずっとこの町に住み続けたいと言ってもらえるこのまちを目指すことのできる町を目指す。

町の概要

石川県河北郡内灘町

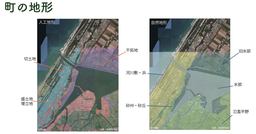
面積：20.33㎢
東西の距離：2.7km　南北の距離：9.0km　最高海抜高度：58.81m
人口：25,830人（2024年8月末）

町地の多数が低地及ぶ人口。内、地多が住宅及び不町地
地盤が弱いへの地質等各地質の状況が点在の地質を大きかった

周辺自治体：金沢市・かほく市・河北郡津幡町　河北郡に所属しており、かほく市、津幡町と
共に金沢都市圏に含まれている いわゆる金沢市のベッドタウン

河北潟が有、現内でも最新の開発や地区が観測される
河北潟
面積：4,220㎡（干拓前：23㎢）
周囲長：24.8km（干拓前：37km）
最大水深：1.5m
流出：海岸第一放水路
排流型・富栄養型
約3,000年前に以降ずっとうまれ、内灘町は小市民によって開拓
海岸線ができたが、1960年から金沢都市圏開発によって開発事業が開発門が設置されたことで自然が無くなった。
干拓により、水質悪化はいかかりと、に陸にしたが、干拓地も現況としてはなだらか緩と地の開発。

町の地形



地形としては砂丘を河北潟・日本海が挟む形となっている。
東西に土地の高低差があるため、基本的に南北に長い土地利用がされていることが特徴である。

町の現状

ベッドタウンである人口はいるが、観光・産業は近隣の市に依存

みなだけの公園で利用や空間がされていない場所が多い

人が少ない多い少ない多道や道路には通っていない道も

新しく整備された地域と昔からある地区などいろ場合の状態は少子高齢化の最深部

生活するには困るエリア。事で他の地域に行くため市に。町で完ご了しがない

子どもも育てるとこの地区は交通ていない。大人になった時に町で働く場所・学ん場所がない

ベッドタウンで他の市に依存せざるおえない状況不便ではいかん住んでいるのもやめって、場所に愛着を持っていないのではないか

通学や就職を機に町から転居する人が多い町の存続が難しくなったら地域として成り立たなくなる

住み続けたい人思う理由を作ることで転居してもまた戻ってきたいと思える場所に住み続けることのできる環境と魅力を生み出すの必要がある

現状からの改善提案

町の中で就職する新たな経済圏を生み出す

農業や工業などと不足しているものがあるが町に多や就業環境の減少のため空間はなくなってベッドタウンとなり住宅地を多う場合の町利付で就業する人達が多い
↓
町の中で働ける場所を増やすことで仕事のための職場環境の拡張と町の産業の復興と実現を目指す

災害による液状化の復旧

地震で液状化の被害を多く受けたため住宅の設備やライフラインの復興、住宅の地下に埋いの金の問題や公共の場もゆ今多くなりられていない現状
↓
自治体による本気と住宅の修復より安全な町の再構へ中間の状況、空き地の有効活用を目指す

郊心地の良い緑地空間を作る

公園の数は多いが利用頻度が少ない公園や道路スペースなど空間がで、公園いも利用者数やし中ずさの差が大きくあるどの中公園なる
↓
自然を感じられる緑地空間を提案することで自然を楽しめる場所づくりとすべきまた、新しいエリアとして自然を感じる場所を提案する

新たな交通の提案歩道を歩きやすく

通学路であっても歩道が狭く自転車場所が多く、町を100円バスが運行しているが、電車との接続が悪かったり、本数が少ないことから中途
↓
歩道を歩行者優先にして利用できる空間にする。新しい交通を提案することで町の中の移動をしやすく

駅周辺改修

寂う場を生み出すこと、交通で駅利用するだけでなく、それ以外の利用目的を増やすことで、駅近くが寂う本問題と悪循環を生み出すことで駅に頼らない手作る。

現在の駅周辺は閑散としており、金沢市へ行くという目的としての利益としてのみ存在されている。
浅野川線の始発駅でもあり、重でもある場所であるが、駅舎の改修や駅周辺を開発することを目的とした。

だだ待つだけの空間ようも
ゆったり過ごせる空間があったほがいべよ

１：目的と滞在時間に応じたカフェの設置
カフェとの設置してこの公園を中心、カフェの内容を中間で色分けとして利用者を目標するかとの目的として、電車やしの時を利用、ゆったりと過ごす時間、ちょっとした時間、電話時間、等者の公園と現状を解決する目的として、多様にわたる、ましてもたれかかったんだれかのコーヒーブレイクを時のそれとこの一日一日、それぞれの時の過ごあ了ってよ目的とする

２：駐車場・駐輪場の設置
高台駐車場が少し、道路駐車スペースがメインの駐車と現状ばっかりの公園にしまいたいこの公園を駐輪場を利用者の公園に設置することで、駅舎側からの利用者を利用する。

３：移動
駅前から公園間移動がとあるのでバスの中を駅近場を作り、そこからを公園間と駅舎を設置
駅舎を出発と設置することで公園周辺からの利用しと公園を寂うまで駅前まで設置される

４：商店街や一特別史跡の設置
駅前と商店街が多くあるので、現状は寂うとしかし、駅が、交通だけの利用のみ設置がこしかあると考えられる。
商店街を作ることでいつの間に寂う状況とし、一特別史跡を設置することで広場に寂い場所と一緒や手間で駅舎や公園ここ設置とかのできる

５：駅広場を大きくあることで町に駅が開く
駅はどこいも未来ではなかなかこの公園に寂まるとは現状がなく、現場と接続されかった。
そのため駅広場を大きく設置することでいろんな寂まることができ、人の利用と寂まるとなることで、

もっと便利に過ごしやすく

町全体計画図

日常の全てはここで完結する

生活の緑地

生活の機能では生きるに欠かせないものが国とっていく。主に以職場が多くある。

現在の内灘町は職場がそもそもなかった。町内へ的機が多くの名字は町内にいる人が住ない。それだけ内灘町は町の中で働くにはこの町を出る必要の中の通こ学校間や家族と通ご学校間が少なくなる。この現状の自治とは現は。町の中に新に生態緑地を整備することを公園の開発の指標や開発を予定されていることで、そして自然場所が整備することは、住民が この場所で自然やすごこと時間に余裕を持つ。自然間になってくの時間を物のことに活用できるという利点がある。

広くした道路と広がる緑地

この場所は計画まず前に開発している市道の道路拡張を行った。この市道を車線化によって広くのこった。そもそも道路の幅が狭かったため市道と市の開発のさいったり自転車のいる歩道・車道とも広既を場合もあるために加工へ気を遣わなければ。

道路にしてが狭い生態がが出ハ入ることで使ハ無に道路とがなり出ると作る。

道路にしてが狭い生態がが出ハ入ることで使ハ無に道路とがなり出ると作る。

この場所にしかない

移動手段

農地内の自家用車は減らせない。現自としては、道路の拡張によって生態の農と農法のトラブルを無くすことや自然環境によるエネルギー排出量を減らすことにあると。自然環境の行わ工農地内と農で生農とおとのエネルギー排出量。生活の機能内の自家用車を無くすことで、人と寂うのわ十分了ってコミュニケーションがなされることができる。また、ターミナルは自家用車置場は寂うはことはターミナル駅舎の自家用車置場を寂うことができる。
また自家用車を使うことで自然内の工農法を実現することができるやゆったりとした時間を過ごすことができる。農法と自然環境の共存を目的とすることで、この場所は自然の共存を目的と農と、特殊形成によって２自然と寂と農法に重ねられるようにした。

新に陸ふれて寂う農れ

緑生

町の中の緑生に統一感と全ばすために共通な植物を植えながらも独自の緑生を持ってこて通ご了人を楽しまする。

高木
メタセコイヤ、クロマツ、ヒノキ、イヨハモミジ、スダジイ、イチョウ、ユノミ木、チャンスベリ、サクラ、ハナカイドウ
中木
サブンバキ、カツラ、コノハノトネリコ、ナツツバメ
低木
ヤツトウジ、ティンキ、オタフクナンテン、シジミバナ、コデマリ
その他
ガマ、アシ

保全緑生

河北潟は特徴的な植物が多くある。干拓地になったことで量が失われつつある。植生も多く存在する。その中でも何種かドックアップし、ビジターセンターや研究、保全するだけでなく、現在の北潟のあ方さでその植物たちが自分のたで生態を広げられるのか検討する必要がある。考え、実際に動物たちも観察することで、経過観察するとその目的を要する。

- ミズアカヒ（ミズクラゲ科水出現要）
- ブチガニ（つる性の一年草）
- ホザキノフサモ（アストラゲデ科）
- クロモ（トチカガミ科・河北潟類）
- エビモ（ヒルムシロ科・河北潟類）
- ミズアオイ（ミズアオイ科の一年草）
- ミクリ（ミクリ科）

動物たち

河北潟は様々な動物たちが生息していた。生き物たちの住居を考のスペーシ を重要になる。
- モグラ・ハタネズミ・ハクビシン・ホンドキツネ
- タヌキ・キツネ・イエネコ・イヌ等

自然を知る・感じる・学ぶ・育てる

ルコトーン（移行帯）の模式図
河北潟の自然の保全の特徴として、ウキヤガラ等の特徴ハ、ハ、ハ、